

別紙 1

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	水沢市立常盤小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	4	4	4	4	4	1	24	33
児童数	113	128	129	146	145	124	4	785	

研究の概要

1 研究主題

自ら考え、主体的に学習に取り組む子どもをめざして ~国語科・算数科における指導と評価の在り方~
--

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数・国語 ・ 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 ・ これまでの研究成果と児童の学力調査の結果から、全校体制で研究に取り組むため。
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ 基礎・基本の定着を図る学習指導の在り方 研究の見通し(仮説) 国語科・算数科において、基礎・基本の確実な習得と、個に応じた指導の工夫をするならば、児童に確かな学力を育成することができるであろう。 研究の内容・方法 ア 国語・算数の基本的な課題解決型の学習指導過程の作成と実践 イ 個に応じた指導方法、指導体制の工夫 ・ 第3、4、5学年の算数を中心に、個に応じた少人数指導の効果的な在り方の工夫と実践 ・ 1C1Tによる個に応じた指導方法の工夫と実践 ウ 個に応じた指導をするための評価規準の見直しと活用
--------	---

平成16年度	テーマ 国語科・算数科における指導方法・指導体制の工夫改善 研究の見通し 国語科・算数科において、一人一人に課題解決に向けての見通しをもたせ個に応じた指導と評価をしていくなれば、自ら考え、主体的に学習に取り組む児童が育成できるであろう。 研究の内容・方法 ア 自ら考える力を高める見通しのもたせ方 イ 個に応じた指導方法、指導体制の工夫・改善 ウ 評価規準の活用と自己評価の在り方
--------	---

(3) 研究推進体制

学力向上フロンティアスクール校内推進委員会 (校長、教頭、教務、研究主任) 研究の方針、方向性を協議する。	
研究推進委員会 (校長、教頭、教務、研究主任、教科部長、学年部長) 研究計画や具体的な研究推進計画について協議し、研究推進の母体となる。	
全体研究会 (全教員) 研究計画の共通理解を図り、授業研究の推進をする。	
国語研究部会	算数研究部会
少人数指導部会 それぞれの部会の実践的研究を推進する。	

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- (1) 国語・算数の基本的な課題解決型の学習指導過程の作成と実践について
 国語と算数の教科部会において、基礎・基本の定着を図る課題解決型の学習指導過程を研究授業を通して作り上げ、お互いに授業提案することで全職員の共通理解のもと授業実践をすることができた。児童は、学習の流れや学習の仕方が分かり、アンケートでは、国語、算数の「学習が好き」「学習が分かる」と回答した児童は全体の80%であった。
- (2) 個に応じた指導方法、指導体制の工夫について
 算数科において、新たな学習内容におけるレディネステスト、事前テスト等で児童の実態を把握し、その実態に応じた少人数指導を実施したことにより、個に応じたきめ細かな指導を展開することができた。単元テストの結果は、全国平均を上回る結果(資料)であった。
 また、算数を中心に少人数指導を行っている第3、4、5学年の平成15年度岩手県学習定着度状況調査の結果(資料)は、算数においては、県平均を3学年とも上回った。国語においては、第4年生は1%下回ったが、第3、5学年は上回った。このことは、個に応じた少人数指導の成果と考えられる。
 資料 【授業実践例 第3学年 算数「わり算を考えよう」(少人数指導)】

ア 実践の概要

習熟度別による単元全体の指導計画と評価計画を作成し、レディネステストを実施した。学級の児童を、「じっくりコース」と「たっぷりコース」に分ける。

- レディネステストの結果(既習内容と未習内容の理解度、計算速度)から、助言をしながら児童にコースを選択させた。自己評価の力を高めることにつながる。「じっくり」では、問題把握や一人学び(自力解決)の際、半具体物を活用し、個々の様子を見取りながら支援をした。「たっぷり」では、既習内容を活用しながら多様な方法で問題解決をさせ、自分の方法を説明させた。適用問題もコースに応じた量や内容とした。

担任と少人数担当者で、単元計画を基に毎回授業の打ち合わせをし、授業後には、子どもの学習状況について情報交換した。

イ 実践の結果と考察

- 児童の実態に応じた習熟度別の授業を展開することで、教師の個への支援と児童一人一人の活躍の場が増え、「分かった」「できた」と満足感をもつ児童が増えた。また、そのことが、次の学習への意欲、主体的な学習態度につながり、単元のテストでは、総合平均点が90点以上となった。
- 「知識・理解」や「表現・処理」は全国平均よりかなり上回るが、「考え方」は全国平均と大差ない。「じっくり」コースの児童の「考える力」の育成が課題である。

【単元のテスト結果】

第3学年	知・理：配点	表・処：配点	考え方：配点	合計(全国)
長い長さを	47.6 (43) 50	47.0 (43) 50	43.4 (38) 50	91.0 (81)
わり算を	45.6 (43) 50		40.3 (39) 50	132.9 (125)
四角形を	46.7 (41) 50	48.1 (41) 50		94.8 (81)

資料 【平成15年度岩手県学習定着度状況調査の結果(括弧内は岩手県の平均正答率)】

	第3学年	第4学年	第5学年
国語	82(77)	76(77)	72(69)
算数	90(85)	74(72)	77(71)

(3) 個に応じた指導をするための評価規準の見直しと活用について

平成14年度に作成した単位時間ごとの評価規準表の見直しをした上で、授業において「おおむね満足できる」に到達していない児童には、授業の中で到達できるように支援を行ったり、授業後に個別指導を行ったりするなど、適切な評価や支援ができるようになってきている。

2. 今後の課題

- (1) 学習定着度状況調査やC R T検査(教研式標準学力検査)の結果を受けて、国語、算数の指導方法、指導体制の工夫・改善を図ること。
- (2) 個に応じた指導の一層の充実を図るため、「補充的な学習」や「発展的な学習」に取り組むこと。
- (3) 基礎・基本の一層の定着を図るため、朝自習や家庭学習をとおして「読み・書き・算」の力を付ける工夫をすること。

学力等把握のための学校としての取組

児童一人一人の基礎・基本の定着状況を把握し、指導上の課題を明らかにするとともに、学習指導の充実を図るために、以下の取組を実施している。

2学期途中実施の岩手県学習定着度状況調査において、年度途中の基礎・基本の定着度合いを把握して2学期後半の指導に生かす。そして、1月末のC R Tにおいて、1年間の定着状況を把握し、3学期後半の指導に生かすとともに、次年度の指導の充実に役立てている。

- 1 岩手県学習定着度状況調査 10月2日実施
第3～4学年 国語、算数 第5～6学年 国語、社会、算数、理科
- 2 教研式標準学力検査C R T 1月末
第1～2学年 国語、算数 第3～6学年 国語、社会、算数、理科

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1 研究会、説明会等の開催実績

平成15年度第3回校内学力向上フロンティアスクール研究推進会議

日時・場所 平成15年11月27日、水沢市立常盤小学校

対象 水沢市立常盤小学校教員及び保護者代表、担当指導主事

目的 学力向上フロンティアスクールとしての中間まとめの報告

平成15年度第2回水沢教育事務所管内学力向上フロンティアスクール研究推進会議

日時・場所 平成15年12月9日 水沢市公民館

対象 水沢教育事務所管内指定校の校長、担当者及び協力校の担当者、保護者代表、教育事務所指導主事

目的 学力向上フロンティアスクールとしての中間まとめの報告・協議を行い、成果を管内に普及する。

平成15年度第2回岩手県学力向上フロンティアスクール研究推進会議

日時・場所 平成16年1月14日 岩手県庁舎12階講堂

対象 県内指定校の校長、担当者、担当指導主事、保護者代表

目的 学力向上フロンティアスクールとしての中間まとめの報告・協議を行い、成果を県内に普及する。

2 研究成果普及の方法

水沢市立常盤小学校のホームページ上に掲載

平成15年度授業実践記録集の作成(3月上旬発行)と市内小・中学校への配付

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無